

日本拳法についての考察～自衛隊の場合～ A study of *Nihon Kenpo* ~ In the case of the Self-Defense Force~

1K03A100-4 三摩豪耶

指導教員 主査 中村好男 先生 副査 小野沢弘史 先生

【緒言】

自衛隊員たちは国を守るために日々己を鍛えている。そこで自衛隊徒手格闘という格闘術を取り入れている。強力な敵を徒手（素手）のみで瞬時に制圧する。このことだけを目的として編み出された格闘術が自衛隊徒手格闘である。これは戦場体術だけに、環境を選ぶことなくあらゆる場所で、しかもルールのない戦いに対して秒単位で勝ちを得るよう設定されている。武器を持つ敵に素手で挑むという最悪の状況さえありえる。

自衛隊徒手格闘は昭和30年代、自衛隊の任務に適した格闘術を新たに採用すべく、柔術・柔道・拳法・空手・合気道・レスリングなど、さまざまな素手による武術および格闘技を調査研究し、主に日本拳法をベースに即戦力を持つ技のみを選抜して組み立て直したものである。そこで複雑な動きを要求される華麗な技など除外されて、実戦本位のどちらかといえば地味な技ばかり集められた日本拳法を自衛隊では修練の一環として訓練している。

自衛隊員たちは平和維持活動（PKO）への参加や敵コマンド・ゲリラ部隊の掃討などのさまざまな危険性を秘めた地域で行動している。そこで本研究では自衛隊員たちがなぜ日本拳法を訓練することを選んでいるのかについて研究し、検討をした。

【Ⅰ. 日本拳法について】

1. 拳法の起源 2. 日本拳法の創始 3. 日本拳法連盟競技規定 4. 日本拳法連盟審判規定 5. 道場について 6. 礼 7. 呼吸法 8. 防具について 9. 急所

【Ⅱ. 身体的領野】

身体的領野を分析すると、まず力と技とが現れてくる。力とは、意志の達成に必要な行動を起こすための身体的エネルギーである。技とは、意志の達成に最も効果を出すため、行動に対する身体的なエネルギーの作用を規制するものである。拳法の身体的領野における力と技はそのどちらが欠けても、成立させることができない。両者は互いに密接な相助作用をするものである。

技は、力の強さによって、その冴えをいよいよ増すものである。また、力は、技の冴えによって、その強さをますます増すものである。ゆえに理想の日本拳法を求めるには、

力には強度を要求し、技には精度を要求して、その両方をやりとげることが必要である。

【Ⅲ. 精神的領野】

精神的領野を分析すると、まず指導精神と構成精神とが現れる。指導精神とは私たちが人としての道を守るために身につけた拳法という殺傷の技を悪用・濫用をして暴力化しないように指導管理をする精神とする。構成精神とは身体的領野で拳法を構成するところのものであって、いわば精神的なエネルギーとする。この精神の支配によって身体機能が力となり、また技となるのである。

【考察】

日本拳法は日本古来よりある格闘技のうちより、その最も強力な危険な打撃技を中心として、投技逆捕り技を含め、防具を着装することにより危険度をなくして、実戦に近い状態で練習及び競技を行なえるようにしている近代的な総合格闘技である。形練習では習得し難いとされる間合い、タイミング、撃力の加減が自得できる。また、乱稽古の激しい撃ち合いは、見た目には荒っぽいのが、実際にはいたって安全である。強い蹴技を使っても、相手を組み敷いて加撃しても、怪我の心配がない。

また、身体的領野と精神的領野は「人間」という一つにまとまっている。身体的領野を鍛える目的であっても、精神的領野が自然と鍛えられる。また精神的領野を鍛える目的であっても、身体的領野が自然と練られる。そうして自衛隊は力・技・指導精神・構成精神を心身に宿さねばならない。

こういった理由から自衛隊では日本拳法を訓練していると考えられる。